

業績ハイライト

Kirayaka Bank

主要な経営指標

■連結

	(単位：百万円)	
	平成22年9月期	平成23年9月期
連結経常収益	13,612	12,718
連結経常利益	916	1,089
連結中間純利益	877	1,121
連結純資産額	50,967	50,053
連結総資産額	1,242,643	1,277,650
1株当たり純資産額	236.38円	229.30円
1株当たり中間純利益	5.42円	7.39円
潜在株式調整後1株当たり中間純利益	2.25円	2.70円
連結自己資本比率(国内基準)	10.39%	9.33%

■単体

	(単位：百万円)	
	平成22年9月期	平成23年9月期
経常収益	13,214	12,350
経常利益	851	980
中間純利益	825	1,057

- (注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり中間純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり中間純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
 3. 連結自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。

営業の概況

■損益の状況(連結・単体)

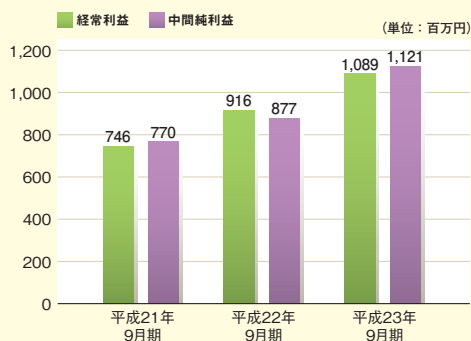
当中間連結会計期間の損益につきましては、連結経常収益は、貸出金利回りの低下による貸出金利息の減少や有価証券売却益の減少等により、前年同期比8億94百万円減少の127億18百万円となりました。

一方、連結経常費用は、預金金利の低下による預金利息の減少や物件費および不良債権処理費用等の減少により、前年同期比10億66百万円減少の116億29百万円となりました。

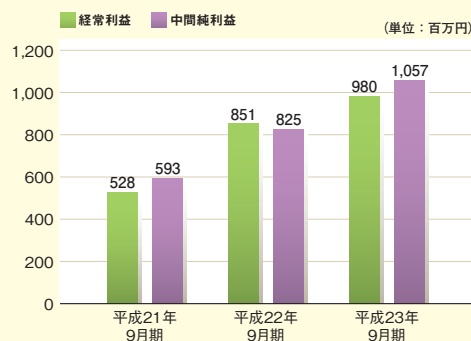
その結果、連結経常利益は、前年同期比1億73百万円増加の10億89百万円となりました。

また、連結中間純利益は、東日本大震災の影響による貸倒引当金に戻入れが発生したこと等から、前年同期比2億44百万円増加の11億21百万円となりました。

経常利益・中間純利益の状況(連結)



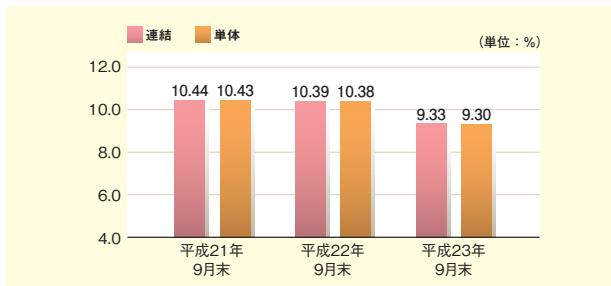
経常利益・中間純利益の状況(単体)



業績ハイライト

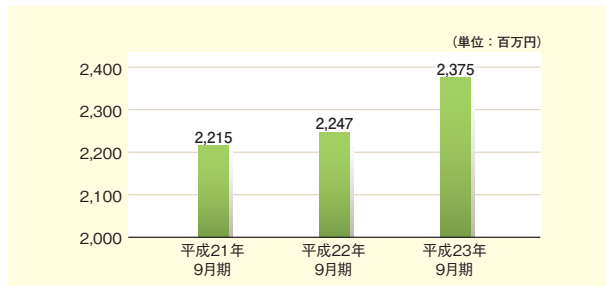
Kirayaka Bank

自己資本比率の状況(連結・単体)



単体自己資本比率は中間純利益による自己資本の積み上げを図っておりますが、平成23年3月に劣後特約付社債を期限前償還したことから、前年同期比1.08%低下の9.30%となりました。

コア業務純益の状況(単体)



銀行の本業部分の収益を表すコア業務純益につきましては貸出金利回りの低下により貸出金利息が減少しましたが、預金利息の減少や物件費削減に努めた結果、前年同期比1億27百万円増加の23億75百万円となりました。

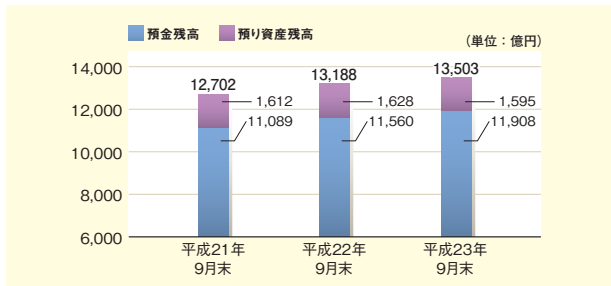
用語解説

- **コア業務純益** | 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益の事を指します。
- **経常利益** | 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- **当期純利益** | 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

業績ハイライト (単体)

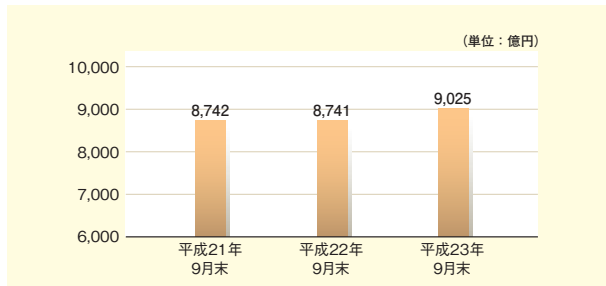
Kirayaka Bank

預金・預り資産の状況



預金残高は、前年同期比348億円増加の1兆1,908億円となりました。一方、預り資産残高は33億円減少の1,595億円となりました。

貸出金の状況



貸出金残高は、前年同期比284億円増加の9,025億円となりました。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
 ※連結自己資本比率(国内基準)及び単体自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。
 ※預金には譲渡性預金を含みません。
 ※決算の詳細につきましては、きらやか銀行ホームページ (<http://www.kirayaka.co.jp/>)よりご覧いただけます。